

# なきごえ



1969

7

大阪市  
天王寺動物園協会

## ダチョウ

意気な鳥打帽子を目深にかぶり、少し大きいいたずら好きのような目付きをしている。ダチョウは頭の毛がまばらで薄くそして立っているのがこの鳥を一層愛きょう者に仕立てています。

又この鳥には毛の抜けた部分（裸出部分）が多いので、羽を広げてお尻を振り振り高足で歩く姿はとてもユーモラスです。それでも時速80kmでツツ走るときの姿は離陸直前の飛行機のごとくとてもスマートです。

ダチョウは走鳥類の中でも最も大型な鳥であることは皆様もよくご存知のことと思います。

走鳥類の間にはレア（アメリカダチョウ）、ヒクイドリ、エミューなどがありますが何れも足の指は3本です。しかしダチョウはバレリーナーの靴のような太い指の外側に小さな指が付いているだけで内側の指は退化しているので指は2本しかありません。この方がスピードを挙げて走るのに都合なのでしょう。産地はアフリカのケニア、タンガニーカです。

このダチョウが天明元年（1787年）に3羽日本にやって来た記録があります。どのような経路で来たものかは分かりませんが、チョンマゲ姿の当時の人々がこの鳥を見てさぞ驚いたことでしょう。

食物は雑食性で野生では菜食の外にトカゲのようなものまで食べています。動物園では養鶏用配合飼料、大豆、玉葱、小麦、甘藷、人参、麩、オカラ、青菜、パン、りんご、それに鯨肉、サナギなどが与えられています。

産地では6~8羽の小群で棲んでいることが多く、寿命は40年です。雌は3年半、雄は4年で成熟します。繁殖期には10~15の卵をうみ、雌雄交



替で抱卵します。雛は40~42日でふ化します。この卵の重量が1600grですから70grの鶏の卵の約25ヶ分の重量に相当します。

一昨年日本動物園協会で国内のダチョウの飼育状況を調査した結果次のようなことが分かりました。

昭和31年に全国に28羽のダチョウが飼育されていてその後42年までに73羽のダチョウが輸入されたのですが42年の全国の飼育羽数は40羽です。この期間中に61羽も死亡していると云うことが分かりました。

寿命は40年ですが我国に於ける平均寿命は5年です。10年以上飼育されているものは現在僅か2例でありました。この原因についてはあらゆる角度から検討がなされましたので、本邦においてもダチョウの飼育は徐々に改善されて行くことでしょう。

調査に現われた死亡原因のなかで外傷で死亡したものが30%もあり、その中には隣接のラクダに相手になって咬まれたものや、縞馬にイタズラして蹴られたものがあります。この鳥が何にでも興味を持つイタズラ好きの習性が伺われます。又雄は雌を命がけで守るという、うるわしいところがあります。動物園でも繁殖期が来ると

羽を広げていつも餌をもらっている人にも示威行動を行います。

36年も前の話だそうですが、この示威行動が分からず足で蹴られて2日間人事不省になったと云うことを聞かされました。それ程このダチョウの蹴る力は強力なのです。

(松岡 恵爾)

△北園には色とりどり華やかな鳥類がたくさんいて見物人に喜ばれ興味をそそる。哺乳類に比べて鳥類がより美しい羽毛や鳴声が発達しているのは一般に飛ぶことができ空中を征服したからで敵から逃げ餌を取る範囲が広くなり安全率が高まって生活に余裕ができたためであった。雌が雄より地味なのは養分の多い卵を生むために経済原則がはたらいて余裕がなくなりそれが卵を抱く時には保護色の役目を果たすことになっている。クジャクやオシドリは雄が美しいのは繁殖期の誇示用で換羽して夏羽は余り変らない。羽を大きくひろげて見せるものにクジャク、セイラン、サンビタン、キンケイ、ギンケイ等がある。私はクジャクの雄同志が物凄く闘争していたのにでくわして第二性徴と雌雄選択の実演が見られた。かと思うと雌雄間でかゆい所へ手が届かぬのでお互いに嘴でグルーミング（羽つくり）をやっている場面もクジャク、ペンギン、コウノトリで見ている。愛情の交換ではインコ類がよくやりラブバードの名前まであるオシドリやツルが一生夫婦で変らぬシンボルになっているのも科学性がある。平和な環境に育ったかわいい小鳥たちは無邪気な顔をしているし肉食性のワシやタカは鋭く厳しい表情をしているのは当然ながら動物の形態は習性と結びついている。何を何処で食べているかによって決定されている。それを一番よく教えてくれているのが鳥の世界である。

△ヤシオウムはヤシの実をサイチョウやオオハシドリは樹上で果物を、ウヤペリカンは魚を、フラミンゴは浅瀬の泥の中にある小動物を探しながらとるに都合よくへの字に曲っている。キツキがコツコツ樹幹に穴をあけ舌が虫を引出すためやじり形にできている。私はサギがハイを捕えてひなに食べさせるのを見ていたが誠に見事な早業である。

△鳥の趾（あしゆび）を見ると住んでいる場所が解り変化に富んでいておもしろい。ワシは力強く爪が鋭く武器となり水辺のシギやサギは細長くガン、カモ、ペンギンには蹠（みずかき）があり

ウヤペリカンは3枚にもなっている。半分しか発達していないサギやコウノトリがありオオバンには膜弁がついている。前後の趾が基本的には3:1になっているが2:2のオオムやフクロウ、キツキもあり、ニワトリでウコッケイ、ドーキング、ウーダンには5本趾があって先祖帰りかもしれない。反対に走るために進化し飛べなくなってしまったエミュー、ヒクイドリ、レアは3本になりダチョウでは2本になってしまった。

△翼はエミューやヒクイドリでは痕跡となり全く用をなさない。痕跡器官で翼に爪の見えるツメバガンは始祖鳥を偲ばせて珍らしい。ハイロヤケイは野生の鶏の一種でガンがガチョウにカモがアヒルに家禽化されたことも忘れず教えてほしい。セキセイインコの緑が青と黄に突然変異した実例もあり、ブチクジャクやキンギンケイが雑種であることも確認させておくとよい。

△水禽舎でガンやカモの脚は泳ぐために後退して陸上を歩くと不格好になり、ペンギンではすっかり後端に位して垂直の姿勢となる。その中間にウが斜の位置をとるのも適応進化の段階がしのばれて興味がある。

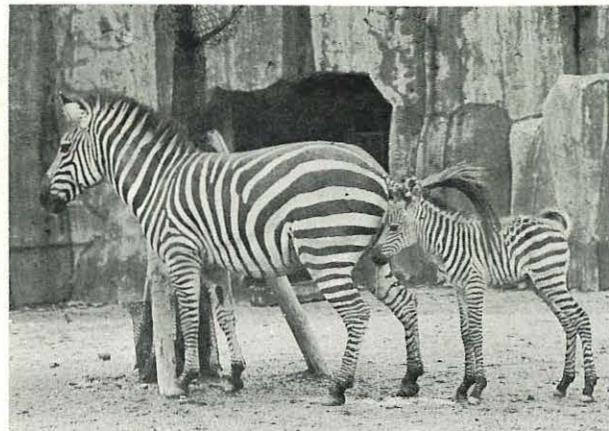
△大禽舎にいるいろいろな鳥が雑居していると自ら強弱の順位があり餌をもらった時に食べに来る順序を調べたこともありハゲコウが一番最初に独召していた。カモメがサギの食べた魚を吐き出させて横取りしてしまったこともあった。夕方になると罅（ねぐら）のテリトリーもきまっているようで連続観察させてみると興味ある話題になる。

△小鳥の動作を見ていると急速な活動をして瞬間に静止の状態となりそれらの組合せの連続である。これは樹上のリス等にも見られるがこれは動いている時が一番目につきやすく危険なのでその時間を極度に短縮して安全を計るように習性化した行動である。

寝屋川市池田

吉田平七郎

筆者……おもちゃの動物園長



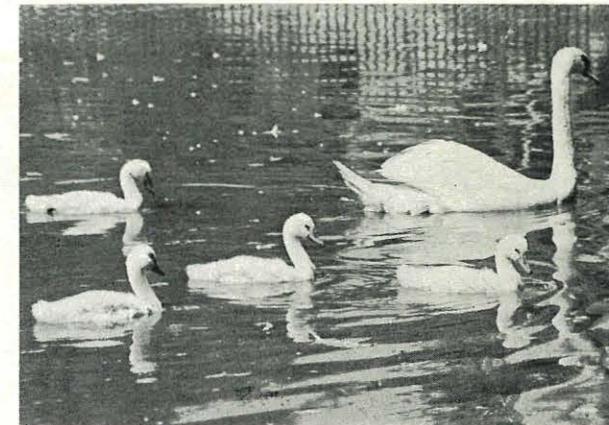
↑ グラントシマウマ

6月21日にうまれました。しまようが大変美しくてかわいい。お乳をのんだり、いつもお母さんウマといっしょにいます。

# 動物園 グラフ

春から夏にかけては動物たちの出産やふ化があいつぎますが、動物園でも5～6月にたくさんの動物たちが生まれました。

先月号の動物園ニュースでお知らせしたほかにシマウマをはじめ写真のような動物たちが生まれ育っています。



↑ ハクチョウ

灰色のうぶ毛に、クリッとした目、お母さんハクチョウについて静かに泳ぎまわっています。



↑

シュバシコウ

今年から、5カ所に巣をつくって、2カ所の巣でひなが育っています。

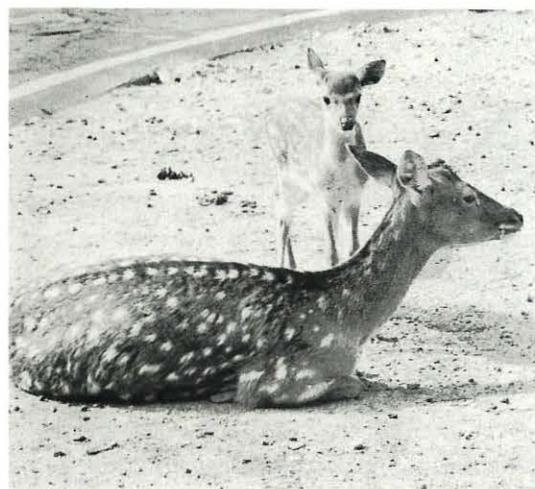


カンガルー

このごろやっと袋から出るようになりました。でもお母さんの袋に顔を突っこんでお乳を飲んでいきます。

エゾシカ

カモシカ園では毎年2～3頭の赤ちゃんが生まれ、群がふえてきました。



カルガモ

すばしっこい小さなヒナが7羽元気に泳いでいます。↓ 自然放飼の池でふ化しました。



## 6月動物園日記

- 2日 キングペンギンが産卵しました。これで2羽が抱卵に入りました。
- 4日 むし歯予防デーにあたり、入園者にむし歯予防をPRするためチンパンジーも一役かいました。
- 5日 クロヅルが脚を骨折し、治療していましたが、死んでし

- まいりました。
- 8日 イノシシが6頭生まれましたが、4頭は興奮した母親にかまれたり、ふまれて死んでしまいました。
- 9日 ブラックバックが1頭生まれました。
- 11日 エゾシカの赤ちゃんが生まれました。
- 15日 ニホンシカの赤ちゃんが生まれました。今年初めての仔です。

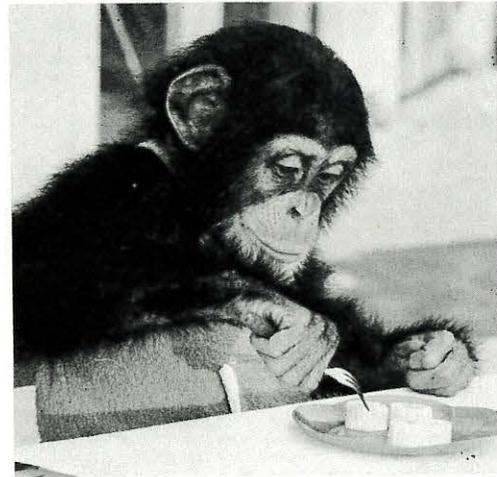
- 19日 オオヅルが今年も産卵しました。
- 20日 アイスランドから今年もキンクロハジロの卵が30ヶ空輸され、水鳥のふ卵器に入れ人工ふ化することにしました。
- 21日 グラントシマウマの赤ちゃんが生まれました。
- 22日 クロサイが性成熟に達し、交尾をしました。
- 23日 日本庭の池のカルガモが7羽のひなを自然ふ化させまし

- た。
- 27日 梅雨に入り、鶏舎などカヤワクモの発生を予防するため殺虫剤の撒布を行いました。
- 29日 ニホンシカの赤ちゃん2頭目がうまれました。トビカモシカのめすの足のツメが伸びすぎたので切っていました。

## チンパンジーの餌

野生動物を飼う場合まずその動物が自然の状態  
で何を食べているのかよく知る必要があります。  
たとえばチンパンジーの場合大きな野生イチジク  
など果実、木の芽など主に植物食ですが、ゴリラ  
等と比較した場合やや雑食の傾向があり有名な白  
アリコリをするチンパンジーや最近では、他の猿  
の肉や子供をたべた「いわゆる共食い」のことが  
報告され注目をあつめています。さて動物園では  
アフリカの自然果実などが常時手に入る訳あり  
ません。そこで餌はまず常時手に入るもの、季節  
的にあるものにわけられます。又栄養価や経済性  
も重要になります。常時あるものとしてはパン、  
りんご、バナナ、にんじん、じゃがいも、むしい  
も、タマネギ、青菜、白菜、キャベツ、セロリ等  
やにぎりめしなどで季節的なものとしては、みか  
ん、かき、なし、びわ、いちじく、もも、いち  
ご、水瓜、トマト、メロン、あんず、はっさく、  
ブドウ等およそ、八百屋さんの店先にならべられ  
るものはほとんどといってよい位支給されます。  
チンパンジーの食事の時、そこからみているお客  
さんが季節の変わり目にまだそんなに出回ってい  
ない果物を食べているのをみてうらやましそうに  
しているのをみかけることができます。

又動物性の食物としては、牛乳、玉子、ソー  
セージ、チーズ、はちみつ、じゃこ等を牛乳、玉子  
は毎日、後は適時あたえています。病気などの場  
合、風邪気味の時はお酒をのませたり、果実  
(もも、みかん)のかんづめを与えることもあり  
下痢の時はおかゆをたいたり、野菜スープや自然  
の木の葉をあてます。病気の軽い場合はできる  
だけ薬をやらないようにして食事療法でなおすよ  
うにしています。チンパンジーにかぎらず動物は  
おいしいものから食べます。人間の子供で好物を  
のこしておいてあまり好きでないものから食べ、  
あとでゆっくり食べるくせのものがありますがチ  
ンパンジーはそうはしません。特においしいもの



を先に食べて後は、アチコチかじってついにみん  
な食べてしまいます。

これだけ多種の食物があってもやはり一頭一頭  
好き嫌いがあります。たとえば5頭チンパンジ  
ーがいますが一番小さい3才になるヨウ子はキャ  
ベツが好物でパンジーは白菜、キャンディーはむ  
しいもやにぎりめし、リカはバナナ、リンゴ、シ  
ュージーは小松菜、バナナなど大体このようです。お  
すのリラの好物は人間の味覚とちがひ、すっぱみ  
や、にがみの濃い物でもよくたべ、時々与える自  
然の木の実や菜などもよこんでたべます。やは  
り自然食が最高なのでしょう。一回の量としては  
一番大きいオスのリカ(11才)の場合で一日一  
回、牛乳2合、リンゴ6~8コ、バナナ4本、む  
しいも2~3ケ、さつまいも2~3ケ、にんじん  
2本、白菜1/2、大根葉2株、キャベツ1/4、セロリ  
2本、その他に季節の果物として今頃では、はっ  
さくみかん位をあてています。毎日同じ量を与  
える訳ではなく、その時の体の調子やどうしても  
人の多い時は投げ与えられる餌が多いので量を注  
意します。

同じ物ばかりではあきてしまいやはり食欲がお  
ちるので時々めずらしい物をあたえたり、できる  
だけ変化をつけてメニューを一頭一頭工夫してあ  
たえるようにしています。

(大野 尊 信)

## ★ 新らしい園内案内板完成



このほど写真のような新しい案内  
図板が、中央門を入ったところに完  
成しました。また、園内各所にスマ  
ートな動物舎の案内ポールが立てら  
れ、いっそう便利になっています。

この他、ただいま案内パンフレッ  
トを印刷中で、みなさんに大いに利  
用していただこうと思っています。

## 《 入 園 御 案 内 》

### ★開園時間及休園

3月~10月 午前9時~午後5時  
11月~2月 午前9時~4時30分  
◆閉園30分前で入園券の発売を終わります。  
◆12月30・31日のほかは年中無休です。

### ★入 園 料

普通 大人(13才以上) 60円  
小人(5才~12才) 20円  
団体 30人以上 大人 54円 小人 18円  
50人以上 大人 48円 小人 16円  
100人以上 大人 42円 小人 14円  
◆中学生は小人料金扱  
◆5才未満は無料(但し保護者付添のこと)

### ★駐車場使用料

バス 1台 1回 200円(2時間まで)  
乗用車 1台 1回 100円(ごとに)

### ★交 通

市バス 動物園前下車(南門正面)  
地下鉄 動物園前下車徒歩2分  
国 鉄 天王寺駅下車公園内徒歩10分  
近 鉄 阿倍野橋下車公園内徒歩10分  
南 海 恵美須町駅下車徒歩5分

## ★天王寺動物園協会だより

天王寺動物園協会は現在、正会員、賛助会員、特別会員  
の社団法人組織で運営されていますが、動物園の発展に寄  
与するためにせいぜい多くの方々が会員となって下さいま  
すようお願いいたします。

### 表紙の写真説明

「シマウマ」

7年ぶりに赤ちゃんが産まれました。

お庭は、アフリカの草原よりはせまくても、お母さん  
シマウマにはぐくまれてすくすく育っています。

### なきごえ7月号もくじ

|                   |      |
|-------------------|------|
| 動物の紹介(ダチョウ).....  | 2    |
| 動物園の見方見せ方(4)..... | 3    |
| 動物園グラフ.....       | 4. 5 |
| チンパンジーの餌.....     | 6    |
| 動物園ニュース.....      | 7    |

なきごえ 昭和44年7月15日発行（毎月1回15日発行）第5巻第6号（通巻48号）

編集人 / 加藤寿雄 発行所 / 社団法人大阪市天王寺動物園協会

大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂

定価 40円

